



教授

真鍋 誠司

mana-be-seiji



大学院国際社会科学研究院 国際社会科学部門
経営学部 国際経営学科 成長戦略研究センター 企業成長部門長
文理連携による社会価値実現プロセス研究拠点拠点長
manabe-seiji-vx@ynu.ac.jp
http://manabe-seiji.o.oo7.jp/

オープン・イノベーション
オープン化戦略
自工程完結
サプライヤー・システム
企業間信頼

【研究概要】

私は、組織間（企業間・部門間）における関係性のマネジメントに着目した研究を行っています。

①オープン・イノベーション研究：オープン・イノベーションとは、端的に言えば「技術・知識・アイデアの源泉と活用を社外に求めることによって、イノベーションを興して成果を得ること」と私は解釈しています。特に自社の領域を越えて企業活動を行う戦略を「オープン化戦略」と定義し、オープン・イノベーションの戦略的な側面を中心に研究しています。オープン化戦略では、多くの場合、組織内外の関係性マネジメントがポイントになります。

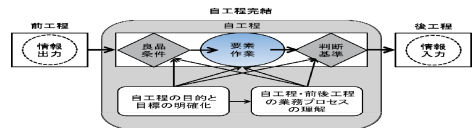
②自工程完結研究：自工程完結とは、従業員一人一人が、後工程（カスタマー）のことを何よりも先に考えて、決して悪いものは造らず、仮に造ってしまっても後工程には流さないということを意味します。したがって、工程間・部門間の関係性のあり方を設計する必要があります。自工程完結そのものの取り組みについて詳細な実態調査を行うとともに、自工程完結の普及プロセスについても学術的に検討しています。

③サプライヤー・システム研究：日本自動車産業の競争優位の源泉は、自動車メーカー内部の生産システムや開発システムにおけるテクニカルな側面だけではありません。いわゆる系列と呼ばれるような、生産と開発を含めた部品取引関係（サプライヤー・システム）の優位性が特徴的であることが、これまでも数多く議論されてきました。私は現在、「企業間の信頼」を鍵概念に、どのような種類の企業間信頼が重要であるのか、またサプライヤー・システムの関係性が変質するとともに企業間信頼はどのように変化するのか、について研究をしています。

【アドバンテージ】

理論と実務の間を往復することによって研究を洗練させていくため、単に先行研究を学術的に検討するだけでなく、企業に対して質問票調査や訪問調査を行ってきました。それらで得たデータについて定量的方法（統計学的方法）と定性的方法（事例研究法）を組み合わせることで、企業の戦略的な意図や行動のリアリティに迫ることを心がけています。

【事例紹介】



■ 相談に応じられるテーマ

オープン・イノベーションのマネジメント
効率的な製品開発の調査と実践
ホワイトカラー（スタッフ部門）の生産性向上

■ 主な所属学会

組織学会
日本経営学会
研究・技術計画学会
国際ビジネス研究学会
Academy of Management

■ 主な論文

真鍋誠司『R&D関連部門の物理的近接による逆機能発生メカニズム—日産自動車の事例分析—』『組織科学第45巻第3号 pp.35-48』2012年3月
真鍋誠司・安本雅典『オープン・イノベーションの諸相—文献サーベイ—』『研究 技術 計画第25巻第1号 pp.8-35』2010年12月
Manabe S., K. Fujisue and S. Kurokawa, 『A Comparative

Analysis of EDI Integration in US and Japanese Automobile Suppliers』『International Journal of Technology Management, Vol.30 No.3/4, pp.389-214』2005.

真鍋誠司『企業間協調における信頼とパワーの効果—日本自動車産業の事例—』『組織科学第36巻第1号 pp.80-94』2002年9月

真鍋誠司・米山茂美『アウトバウンド型オープン・イノベーションの促進要因：森下仁丹株式会社におけるシームレスカプセル技術の事例』『日本知財学会誌第14巻第1号』2017年

■ 主な著書

安本雅典・真鍋誠司（編著）『オープン化戦略—境界を越える企業活動—』有斐閣 2017年

真鍋誠司『長期的関係による信頼構築』加護野忠男・山田幸三（編著）『日本のビジネスシステム』（第2章）有斐閣 2016年